

## 保健所と市・町の役割り分担，連携のあり方

柄 沢 良 子

要約：前回の報告では主として乳幼児健診を中心に市、町側で行う4カ月、10カ月健診と1才6カ月健診を一次健診として位置づけ、保健所が実施している二次クリニックへと連携するためのシステム化について報告した。今回はそれらをふまえて平成元年度に実施した実績と二次クリニックへ紹介された事例についての動向を追跡した結果を報告し、当面の課題について述べる。

見出し語：一次健診の結果、二次クリニック受診者の動向、当面の課題

研究の方法：平成元年度一次健診として市側が実施している4カ月、10カ月乳児健診、1才6カ月健診の実施結果についてまとめ、そこから二次クリニックへ紹介された事例の動向と追跡の結果を報告する。

結果：一次健診の結果：

表1は平成元年度4カ月、10カ月、1才6カ月健診の実績をまとめたものである。乳幼児健康診査の充実と向上をはかるには健康診査後の対応が適切に行なわれることにある。事後管理の充実とむけ小児科医の助言を必ず頂き、母親への支援活動を行っているが、更に保健所と市の保健婦が健診後のカンファレンスを充分に行

って二次クリニックへとつないでいる。

二次クリニック受診者の動向：表2にあるように、4カ月健診で43名、10カ月健診で4名、1才6カ月健診で16名が二次クリニックへ送られている。この事例の詳細については表3、4、5、にあるとおりである。4カ月健診での未定額のケースについては3例が病院紹介となりPT処方を受け最終的に全員正常発達をとげている。その他のケースについては二次クリニックでの回数多い対応により正常発達へと導いていた。特に周産期に問題のあるものの事例については回数多くクリニックでのかかわりをもつことにより、正常発達という結果を得ているが、

その間の母親の不安をとり除くことにも大いに役立っている。また4カ月健診後の二次クリニックの特色は母親自身の育児不安から児には異常が認められないにもかかわらず来所回数を数多くし活用をはかっている母親が多かった。10カ月健診後の二次クリニックへの紹介例は4例と少なくなっているが、そのうちの2例の運動機能発達遅滞児は専門病院での機能訓練を行い1年8カ月で正常発達となっていた。また1才6カ月健診後の二次クリニック紹介事例は殆んどが「ことばのおくれ」によるものであり、親の認識と環境要因によるものが多く、それらへの対応と事後の指導と観察の重要性を感じているが、1名はMBDが疑われており病院紹介となっている。1例は「ことばの教室」に紹介している。その他については3才児になるまで経過を追跡することとなった。以上のように一次健診として市側が実施したものから二次クリニックへ紹介されたケースは、小児科医・市・保健所の保健婦のチームワークによるものである。平成2年度は症例検討研究会を年4回開催しているが、小児科医会より8名、保健所と市の保健婦10名が合同で夕方6時より9時迄、熱心に意見交換、情報交換や小児科医より専門的助言などを頂き、医師と保健婦間の相互の理解を深めることにより、乳幼児健診の事後管理の充実と向上をはかっている。

考察：当面の課題：

保健所で行う二次クリニックは、市側で行っている一次健診で発見された発達に問題のあるケースについて再確認の場として活用できることも重要であるが、母の育児不安の解消の場と

もなっていること。また一次スクリーニングの精度の補正としても活用できるなど事後の対応として重要であり、二次クリニックは異常者の早期発見、早期治療のみに役立ることだけでなく、障害児等の療育方針を導くことにも役立っている。二次クリニックは児の経過から抱括的な援助指導の機能と役割りを担っているので、市・保健所・小児科医との密接な連携が必要である。また医療ルートにのったケースについては、それでうち切れるものではなく、療育の支援が欠除していると親は勝手に病院を転々と替えたり、不安がつのってくるので、常に保健婦は相互の連携を密接にとりながら支援し、問題のケースについては専門病院医師との情報交換を充分とりながらケースとの対応をはかることにより母親の不安感を少なくしていくことが可能であるが、しかしこのことは専門病院の医師側からの意見では必ずしもうまく連携がとれているとは言えないことが指摘されていた。事後管理として今後考慮されなければならないことは、専門病院医師と保健婦の連携が重要課題となっている。また乳幼児健診の一貫性についての当面の課題は、市側が実施している乳幼児健診は1才6カ月児までであり、3才児健診は県が主体で一次健診を実施している現状である。これを市が主体で3才児までひきつづき一次健診を実施することにより、保健所は3才児健診の二次クリニックを担当すればより一貫性がもたれ効果的ではないかと思料される。

表1 平成元年度一次健診結果

		4カ月健診	10カ月健診	1才6カ月健診
該当者数		2,849	3,385	3,171
受診者数		(93.0%) 2,646	(79.0%) 2,675	(91.3%) 2,897
医師 指示 事項	異常なし	(71.3%) 1,887	(79.7%) 2,133	(78.7%) 2,281
	指示あり	(28.6%) 759	(20.2%) 542	(21.2%) 616
	要指導	(4.3%) 114	(5.2%) 140	(7.0%) 204
	要観察	(10.1%) 269	(7.6%) 204	(7.6%) 223
	要精密	(4.6%) 122	(0.9%) 25	(2.7%) 79
	要治療	(4.9%) 128	(2.8%) 76	(1.5%) 44
	治療中	(3.2%) 86	(2.5%) 69	(2.2%) 66
	経観中	(1.5%) 40	(1.4%) 28	(0.0%) 0
	事後 必要なもの	(20.9%) 554	(15.9%) 426	(15.7%) 456
	管理 の方法	呼出し健診	215	153
訪問	28	19	28	
電話確認	114	71	161	
他機関紹介	56	15	38	
健診時確認	124	160	55	
その他	17	8	6	

表2 保健所二次クリニック来所者数

	4カ月健診	10カ月健診	1才6カ月健診
二次クリニック来所者数	43	4	16

表3 4カ月健診後二次クリニック来所者1年後の経過

症状	数	経過
定類不確実	17	3名専門病院PT処方正常発達 その他全例正常発達
低体重児	10	正常発達
小頭症	1	専門病院治療中
腹臥位姿勢異常	5	全例正常発達
下肢クロス尖足	3	1例 専門病院治療中 その他異常なしとなる
筋緊張症	2	全員正常発達
ランドー(士)	2	全員正常発達
開排制限	1	異常なし
引越し反応未熟	1	正常発達
右拇指異常	1	異常なし
合計	43	

表4 10カ月健診後二次クリニック来所者の1年後の経過

症状	数	経過
つかまり立ち不可	3	2例 専門病院訓練し正常となる その他は正常発達
支持立位尖足	1	正常発達
合計	4	

表5 1才6カ月健診後二次クリニック来所者の経過

現症	数	経過
有意語なし	3	1例 MBDの疑 病院紹介 1例 ことばの教室紹介 1例 正常発達
単語少ない	10	全例経過観察中
歩行不可	2	全例正常発達した
大泉門開大	1	正常となった
合計	16	



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:前回の報告では主として乳幼児健診を中心に市、町側で行う4ヵ月、10ヵ月健診と1才6ヵ月健診を一次健診として位置づけ、保健所が実施している二次クリニックへと連携するためのシステム化について報告した。今回はそれらをふまえて平成元年度に実施した実績と二次クリニックへ紹介された事例についての動向を追跡した結果を報告し、当面の課題について述べる。